

## 緩和ケア論

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 三浦 幸枝 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	緩和医療学科、附属病院看護部、附属病院高度看護研修センター		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

緩和ケアは、“がん”を始めとする生命を脅かす疾患に直面している患者および家族を全人的な存在として捉え、抱える苦痛に焦点を当て対応する取り組みであり、医療の根幹を為す概念である。現代医療における緩和ケアの理念を、その歴史から現在に至る発展過程を含め理解し、緩和ケア実践における看護師の果たす役割について探求する。全人的な患者理解と主要症状についての病態理解を基盤とした、苦痛に対する専門的な軽減方法を学び、人の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。さらには、緩和ケアを必要とする患者・家族が安楽な状態を維持し、尊厳を持って生活できるよう、適切な支援を行うためのチーム医療における看護の役割について学ぶ。

### ・教育成果（アウトカム）

1. 終末期にある患者および家族を全人的に理解することで、自分らしく生き抜こうとする患者とその家族に深い関心をもつことができる。
2. 終末期の患者の病態生理を基盤とした症状マネジメントを考え、看護援助を実践することができる。
3. 終末期に緩和ケアを受ける患者とその家族の人権を擁護するためのケアを倫理的視点で考えることができる。
4. 緩和ケアを受けるがん患者のスピリチュアルケアの必要性について理解し、スピリチュアルベインに必要なケアを理解することができる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1. 2. 3

### ・到達目標（SBO）

1. 緩和ケアにおいて協働する多職種間の専門性と役割を理解し、チームアプローチにおける看護師の役割を明確にすることができる。
2. 身体的苦痛についてのアセスメントができ、症状マネジメントの方法がわかる。
  - 1) がん疼痛の分類とその機序がわかる。
  - 2) つらさの閾値を高めるためのケアの方法がわかる。

3. 緩和ケアを必要とする患者や家族に対して全人的視点によるアセスメントを行い、必要な援助がわかる。
- 1) 緩和ケアにおける倫理的課題を理解したうえで患者・家族の価値観を尊重したケアを提供するための看護師の役割がわかる。
  - 2) スピリチュアルペインのアセスメントの視点および必要なケアがわかる。
4. 緩和ケアを受ける患者の社会的ニーズを理解し、ケアを提供するための看護師の役割を説明できる。

・ 授業日程

(矢) 東 2-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
10/24	水	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア概論 ・ 緩和ケアの定義、概念及び緩和ケアの現状について理解できる
10/31	水	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	チームアプローチ ・ 専門的緩和サービス（緩和ケア病棟、ホスピス、緩和ケアチーム）について理解できる
11/7	水	3	附属病院看護部	菅野 綾子 看護師 (がん性疼痛認定看護師)	終末期の症状マネジメント・がん性疼痛看護 ・ がん性疼痛の基本的な考え方と看護について理解できる ・ がん疼痛のマネジメントの方法がわかる
11/14	水	3	附属病院看護部	竹内 可愛 主任看護師 (がん看護専門看護師)	喪失・悲嘆・死別 ・ 死と死にゆくプロセスがわかる ・ 喪失・悲嘆・死別について説明できる
11/21	水	3	附属病院看護部	萬徳 孝子 看護師 (緩和ケア認定看護師)	看取りの時期に応じた患者・家族へのケア ・ 看取りの時期に応じた患者・家族のアセスメント及びケアのポイントが述べられる

11/28	水	3	附属病院看護部	竹内 可愛 看護師 (がん看護専門看護師)	緩和ケアにおける倫理的課題 ・緩和ケアにおける倫理的課題が具体的に述べられる ・患者の価値観を理解し尊重するために必要なケアの視点が理解できる ・看護倫理に基づくケアの実践について述べられる
12/5	水	3	附属病院 高度看護研修 センター	長澤 昌子 主任教員 (緩和ケア認定看護師)	緩和ケアにおける家族ケア ・緩和ケアにおける家族全体及び配偶者、親、同胞へのケアについて理解できる
12/12	水	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	がん患者の全人的ケア スピリチュアルケア ・スピリチュアルペインとそのケアについて理解できる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第2版	恒藤暁 内布敦子編集	医学書院	2016
推	系統看護学講座 別巻 がん看護学 第1版	著者代表 小松浩子	医学書院	2016

・成績評価方法

筆記試験および課題レポートで評価する。  
試験 80%と課題レポート 20%の合計 100%にて評価する。

・特記事項・その他

**【事前学修内容及び事前学修時間】**

学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、講義終了後は教科書や配布資料・ノートにて最低 30 分以上の復習を行い次の講義に臨むこと。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

課題レポートのフィードバックは、内容に応じて講義内で適宜実施する。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

看護師（別表 3）：統合分野 看護の統合と実践

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター (VPL-FWZ60)	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ (P-100)	1	講義用資料投影